

地域との連携による「総合的な探究の時間」の充実に向けた取組



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
山口県立 熊毛北高等学校	熊毛北高等学校運営協議会 平成30年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 0名	熊毛学園



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校は、普通科とライフデザイン科を併置した、生徒数121名の小規模校である。地域にはまちづくり協議会が存在し、活力ある地域を維持していくために精力的に活動している。以前から、ライフデザイン科は学科の特色を生かし地域と連携した学習を行ってきた。令和3年度からは、普通科においても、地域の教育資源を探究課題として「総合的な探究の時間」を再整理し、コミュニティ・スクールの仕組みを活かした探究学習に取り組むとともに、校種間連携や地域活性化活動を推進している。

目標や目指す姿(学校)

生徒一人ひとりの社会的・職業的自立にむけて必要な基盤となる基礎的・汎用的能力の育成

目標や目指す姿(地域)

地域に根ざし、地域と連携し、地域から信頼される学校



特徴的な取組と成果・効果

取組

学校運営協議会

学校のウェブページやSNSを通じた情報発信を積極的に行い、随時情報共有を図っている。学校運営協議会では、本校生徒に育みたい資質・能力について熟議し、その内容を踏まえた「総合的な探究の時間」の構造イメージを作成するとともに、評価規準等についても共有を図っている。



学校運営協議会の熟議の様子

地域学校協働活動

「総合的な探究の時間」において1年生は地域の伝統芸能や自然環境について、2年生は地域の防災や地域産業について、地域の課題解決を探究課題としてフィールドワークや探究活動に取り組んでいる。最終的には地元中学生を交えた学習成果発表を行うこととしている。



地域の伝統芸能に係る探究

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校運営協議会を通じてビジョンの共有と評価・改善を必ず行うこととしており、地域学校協働活動をより効果的に推進している。また、県教委と連携し、「総合的な探究の時間」における年間指導計画、評価計画等のブラッシュアップを図り、教員研修を通じて教員の地域連携に係る資質・能力の向上を図っている。さらに、持続可能な取組になるようCS活動推進員(コーディネーター)との連携を密にし、学校と地域の要望や願いをお互いが把握したうえで地域学校協働活動を展開できるようにしている。

成果・効果

学校教育目標と直結した「総合的な探究の時間」に地域学校協働活動を組み込むことで、教育課程内での取組となることから、全ての生徒が地域の教育資源、教育環境を活用した学習に取り組むことが可能となった。また、学校側の「総合的な探究の時間」の担当者が吸い上げた校内のニーズやCS活動推進員が聞き取った地域側の要望や実情をSNSコミュニケーションツール(SLACK)で、学校と地域が随時共有していくことで、両者の地域連携における負担軽減が図られ、持続可能な体制が構築されている。さらに、県教委と連携し、カリキュラム・マネジメントを進めることで、探究活動の質の向上と全校体制の構築が図られている。

こうした取組を学校運営協議会で家庭・地域と常に共有し、必要に応じて熟議等を行うことで、家庭・地域の願いや思いとの擦り合わせを図り、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有する「社会に開かれた教育課程」の実現を推進している。

あわせて、これまで小・中学校の地域協育ネット(地域学校協働活動本部)に加わり「熊毛学園」地域協育ネットを立ち上げ、12年間を見通した学校・地域連携カリキュラム(学校と地域が連携・協働する教育活動を体系的に示したカリキュラム)の再構築をめざしている。こうした動きの中で、校種間連携が活発化しており、生徒同士のリーダー研修や共同ボランティア活動、本取組の学習発表会への生徒参加を通じて、本校の教育理念や取組を地域の中学校に周知を図るとともに、中学生からの本校への「憧れ」を生み出している。